

「教科偏差値」では 測れない、 あなただけの「可能性」を 地図にする。

次世代型・資質能力可視化サーベイ
「Q-Compass (キュー・コンパス)」

探究実践力 × 熱量 × 行動で描く、一生モノの人間力

株式会社リバネス



なぜ今、この「羅針盤」が必要なのか？

「選別するための評価」から、「未来へ進むための対話」へ。

従来型サーベイ



- ・偏差値・認知能力偏重
- ・Rank & Sort (序列化)
- ・通信簿 (結果の通知)
- ・正解力

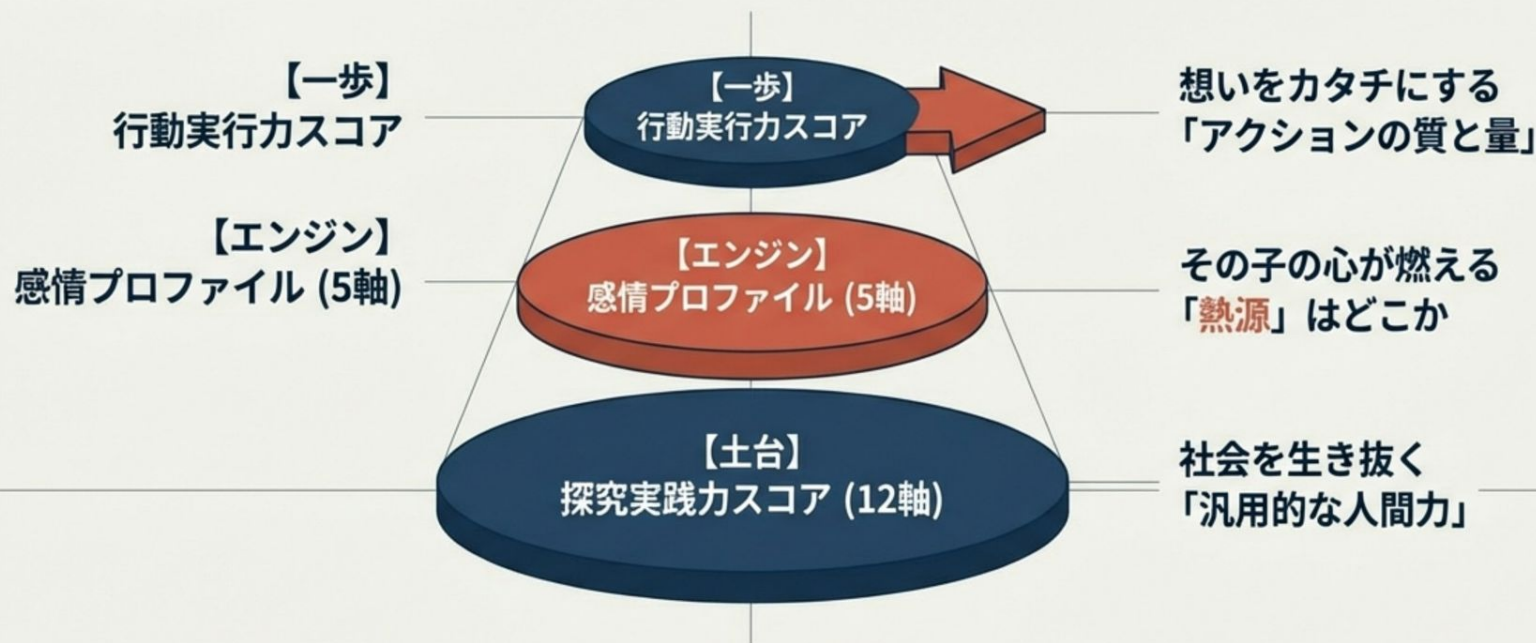
次世代型サーベイ (Q-Compass)



- ・トランスファラブル・スキル (非認知能力)
- ・熱量と行動 (プロセス)
- ・GPS / 羅針盤 (現在地の確認)
- ・作戦会議の地図 (対話ツール)

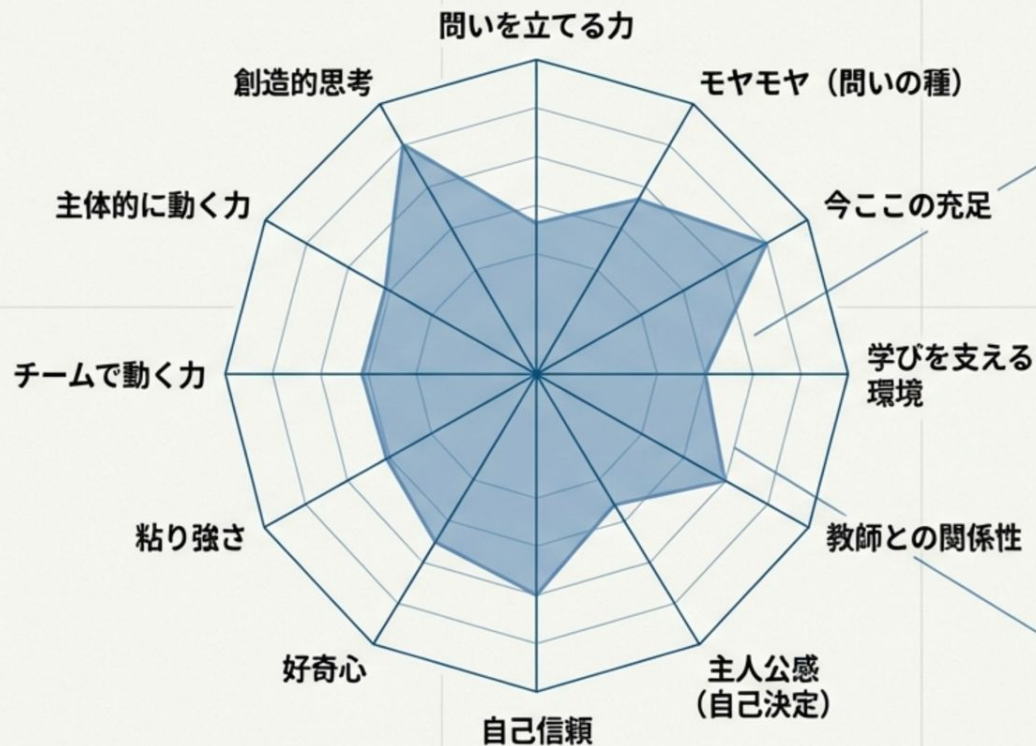
テストの点数では見えない「非認知能力」や「社会情動的スキル」を可視化し、生徒の現在地を確認するためのツールです。

生徒の可能性を「スキル」「熱量」「アクション」の3層構造で捉える



単に能力があるかだけでなく、「動くためのエンジン（熱量）」と「実際の足跡（行動）」をセットで分析します。

詳細定義①：個人のスペックを超え、「環境を味方につける力」を評価する



教師との関係性 (Social Support Utilization)

単に先生が好きかどうかではなく、困った時にSOSを出し、支援を引き出せる力。

学びを支える環境 (Resource Utilization)

学校の設備や雰囲気や、自分の挑戦のための「リソース」として活用できる力。

モヤモヤ (Negative Capability)

安易に答えを出さず、問いを抱え続ける力。探究の起点となるセンス・オブ・ワンダー。

詳細定義②：心の「熱源」と、行動の「半径」を解像度高く捉える

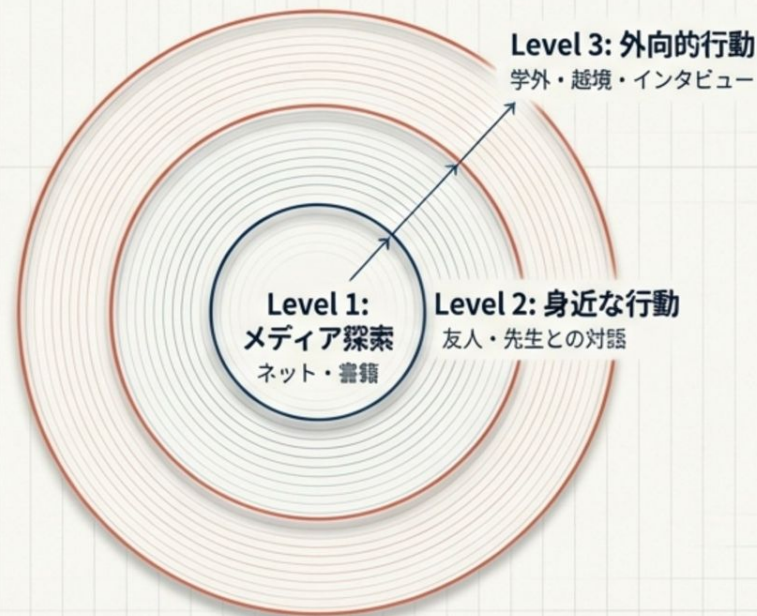
Passion (感情プロファイル)

「能力はあるがやる気がない」理由を、対象との相性や状態から分析する。

1. ワクワク
Excitement
2. 関心内モヤモヤ
Constructive Conflict
3. 没頭
Flow
4. 未来の可能性感
Future Possibility
5. 社会接続感
Social Connection

Action (行動実行力)

行動の「量」だけでなく、社会へ踏み出す「質（半径の広がり）」をスコア化。



データが示す成長の軌跡：中だるみと「V字回復」の真実



停滞は悪いことではない。
異なる刺激 (高入生) との「混ぜ合わせ」が再浮上のカギとなる。

興味を行動に変えるための「3つの壁」



論理と感情のギャップ、失敗への恐怖、内向き志向が、生徒の成長を阻む壁となる。

「強いワクワク」こそが、主体的な行動を生む最強のエンジンである

83%

行動を起こした生徒のうち、
「強いワクワク」を感じていた割合

指導のパラダイムシフト

Before

「行動しなさい」
(Do Action!)

→ 行動の強制

After

「ワクワクしてる？」
(Is there a spark?)

→ 意欲の保護



「行動しなさい」という指導よりも、まずは興味を肯定し
「ワクワクの種」を守ることが、結果として行動率を高める。

生徒を十把一絡げにしない。5つの生徒タイプ（クラスター）による解像度の高い理解



Starter (スターター)

支援待機層 (18%)

心理的安全性低
受動的



Explorer (エクスプローラー)

探索開始層 (18.5%)

受け身の優等生
教師依存



Developer (デベロッパー)

相互支援層 (32.2%)

仲間志向
反抗期



Challenger (チャレンジャー)

自走挑戦層 (13%)

個の突破力
葛藤



Creator (クリエイター)

創造完成層 (18%)

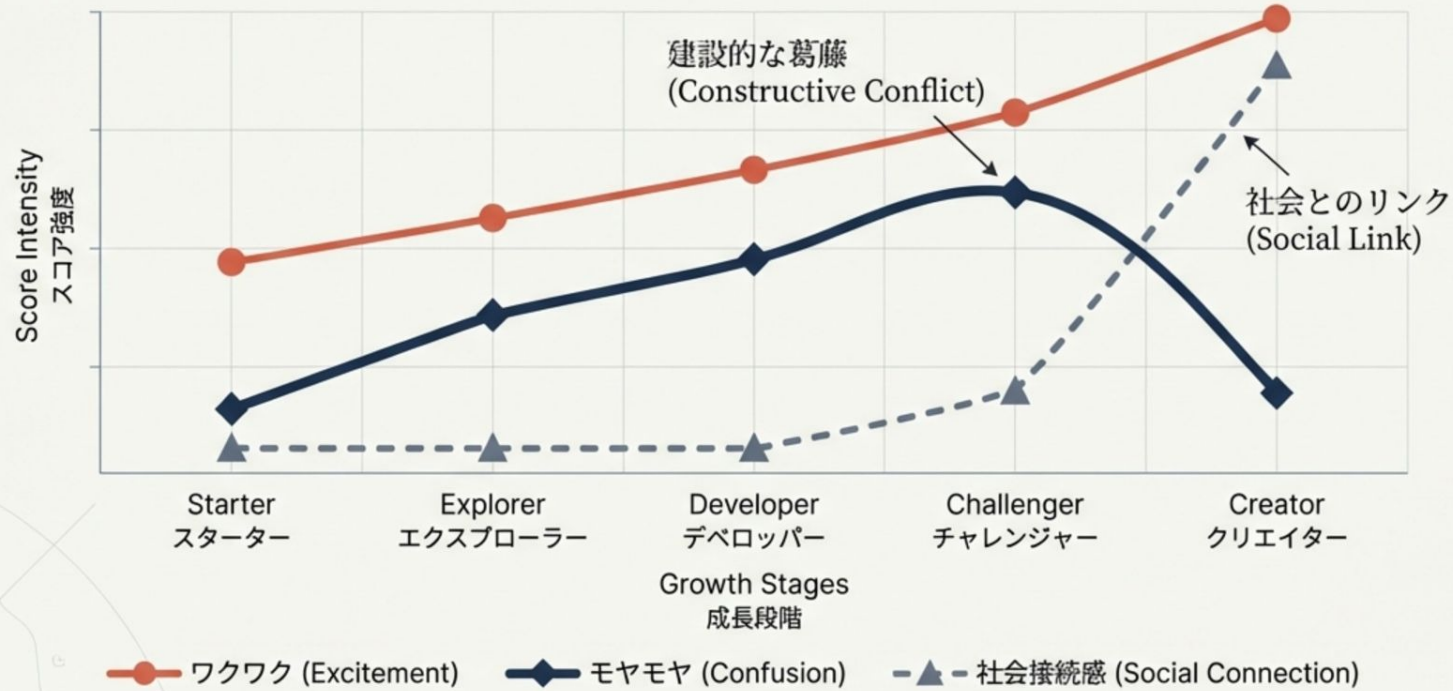
全体牽引
環境調和

タイプが違えば、響く言葉も変わる。クラスター別指導方針

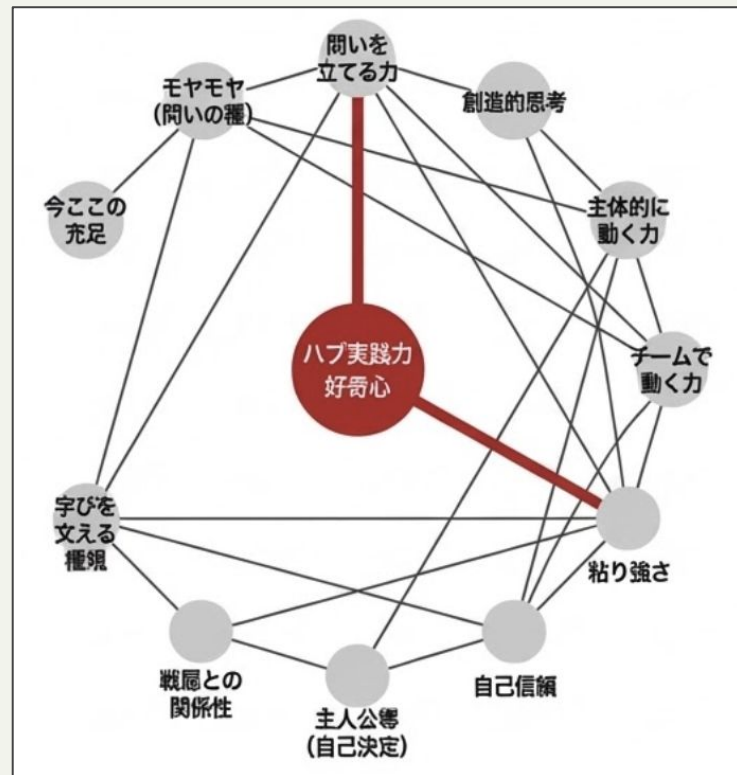
対 Starter (スターター)	心理的安全性の 確保	無理に問いを立てさせず、 まずは「好き」を肯定する。
対 Developer (デベロッパー)	黒子支援 & ピアメンタリング	教師が前に出過ぎず、 横のつながり（仲間）を活用する。
対 Challenger (チャレンジャー)	内省とメタ認知	葛藤を言語化させ、個の突破を支援する。
対 Creator (クリエイター)	ロールモデル化	指導の手を離し、背中で語らせる。

※「関心なし(Unknown)」は問題児ではなく、「探究の潜伏期間」と捉え直す視点が必要です。

探究が深まると、感情の「質」が変わる。「モヤモヤ」の逆U字曲線



「どこを伸ばせば、全体が伸びるか？」成長の急所（ハブ実践力）の特定



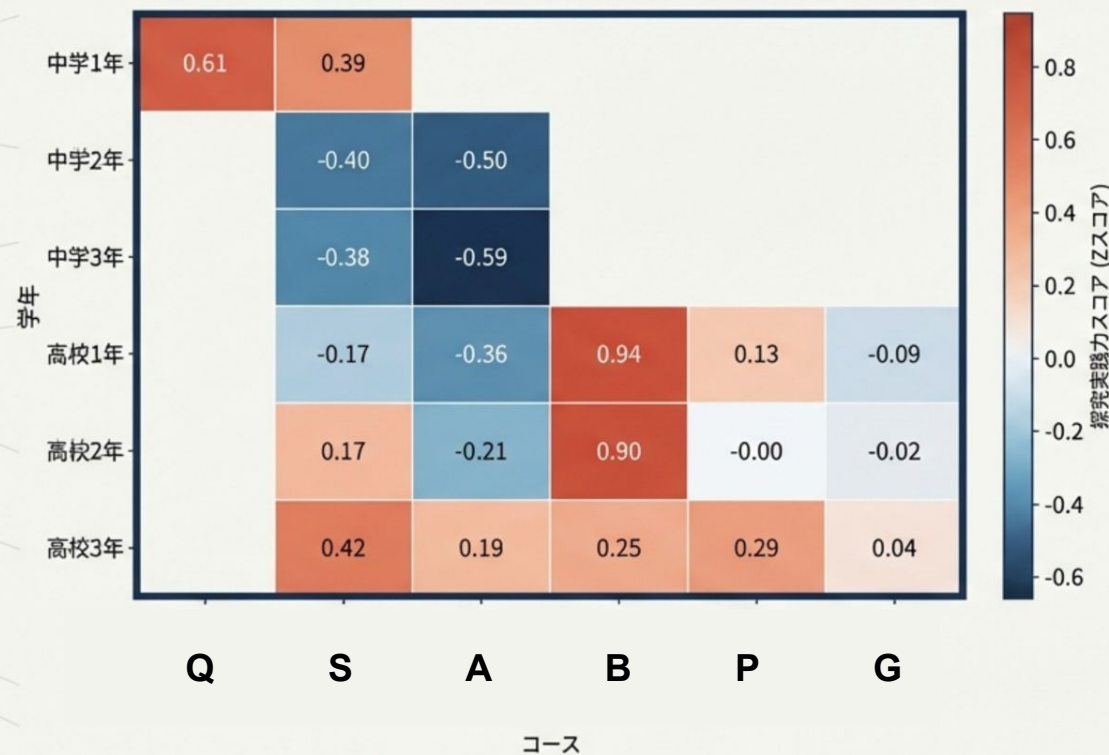
12の力は連動している。
平均点が高い力ではなく、他のスキルと強く結びついている
「ハブ（中心）」を見つける。

学年やコースごとに異なる
「ハブ実践力」を特定し、そこを重点的に支援することで、効率的に全体の底上げを図る。

生徒へのフィードバック：テスト結果ではなく、対話のための「作戦会議シート」



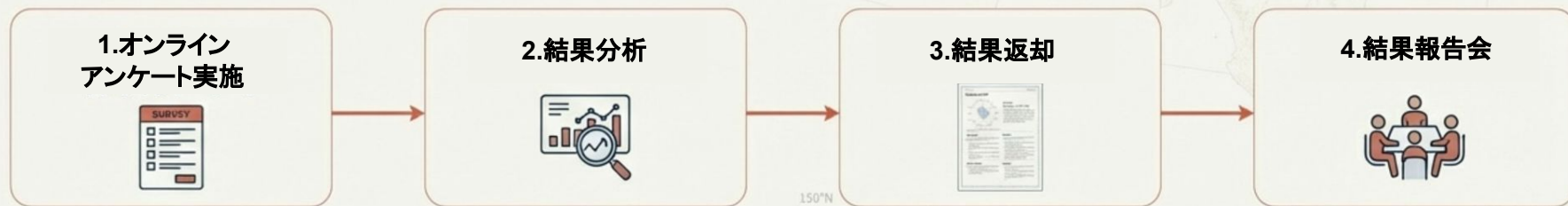
組織へのフィードバック：データに基づくカリキュラム・マネジメント（PDCA）



- 学校全体レポート：経年変化とV字回復の確認
- 教員研修会：データを囲んで先生同士が対話する文化の醸成
- EBPM：感覚ではなく、エビデンスに基づくカリキュラム改善



探究という霧の中の航海に、 確かな地図と羅針盤を。



費用目安：1IDあたり 1,000円程度

生徒の「現在地」を知り、未来への「可能性」を広げる
パートナーとして、Q-Compassの導入をご検討ください。

※データ及び画面イメージは全てサンプルです